

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2019年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	「多様性」を複合的に理解するための領域協働型教育—大学におけるダイバーシティ教育の実践のために
研究代表者	佐々木 洋子（大阪市立大学 大学教育研究センター 特任助教）
共同研究者	西倉 実季（和歌山大学 教育学部 准教授） 山口 真紀（神戸学院大学 全学教育推進機構 講師）
研究成果	<p>近年、大学教育においては、現代社会において多様性への理解と配慮の重要性が高まるにつれ、多様性について配慮できる／自分自身の問題として多様性について考察できる人材の育成が課題となっている。先行研究からは、「多様性」とは、性別、障害、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教……といった個別の属性の集合として捉えられるのではなく、個人においても、また場面においても重なりあって現象することが明らかになっており、複合的視点をもって概念的に理解する必要がある。しかしながら実際の大学教育では、個別の問題として各領域の中で展開されるにとどまり、真の「多様性」へのビジョンそのものにまでアプローチすることは難しい。そこで、本研究プロジェクトでは、これまで隣接領域でありながらも個別に行なわれてきた研究・教育実践を共有し、ダイバーシティというより包括的概念を通じて発展させることで、各分野における新たな論点抽出を目指すとともに真に多様性の理解を進めるための教育方法を模索し、後進の育成に貢献することを目的としている。</p> <p>本研究の特色は、研究目的に鑑み、メンバーおよび研究協力者として多様な分野・関心の研究者・実践家が関与していること、さらに、教員による教育方法の検討のみならず、学習者である学生の参加と協力により、教育効果の検討を行うことである。</p> <p>2019年度は、研究計画に基づき、①本テーマに係る基礎的文献のデータベース化、および参考となる教育実践等を検討しつつ、②研究協力者による個別の実践共有および検証のための研究会を計7回にわたり開催した。各会のテーマおよび講師は、メンバー各自がそれぞれの担当分野からの「社会的公正のためのダイバーシティ」へのアプローチを目的として決定した。また、第1回および第3回・第4回は、大学生の自主ゼミグループ（近畿大学・神戸学院大学）との共同開催とし、実際の授業形式で講演およびディスカッションの形式ですすめ、教育効果の観測も行った。これまでの研究会の成果や課題を共有・検証し、③より効果的な教育プログラムの考案の作業を進めている。今後も、本助成への採択を機に組織した「社会的公正に基づくダイバーシティ教育研究会」継続的に取り組んでいく予定である。</p>